

晴永牧兔

DDシリーズ

イラスト&SS集



成年
コミック



「いけないかた、もう朝ですわよ!ドレスを着ていたところですがのに」ローラの白く丸い胸が安宿の格子窓から漏れ入る曙光に清らかに照り映え上下する。言葉とは裏腹に、薄い茂みの下の秘部はつい数時間前まで何度も注ぎ込まれた精液のぬめりによってたやすく勇者の屹立したものを受け入れた。

「ああ…ああ」体の下で小鳥のように可憐にもがき、幽閉にやつれた白い腕で彼の腕にとりすがる少女は、紛れもなく城のテラスの上や馬車の中に時折見えてかつて彼の胸を限りない憧れに焦がした王女そのひとである。そのひとが、昨夜も、いまも、自分の卑しい肉棒を紅い肉襷でしごいている…。ぞくぞくしながら勇者は囁く。「子供は3人はつくりましょう、姫」返答はもはや慎みも何もない熱い口吻である。



3人での野営地を毎晩2人でそっと抜け出し、荒野の真ん中に来る。するとムーンは服を脱ぎ捨て、全裸で四つん這いになってその辺を走り回り、小便をし、遠吠えをあげる。それをサマルは魔物に襲われないよう見守っているのだった。

「お願いよ、あの子には言わないで。あの子だときっと怒るでしょう」ローレシアの従兄のことだ、とサマルは腰を振るムーンの下で考え、そしてぼんやりとそうだろうな、と思う。我々の従妹がこんな真似を、恥知らずとあいつなら怒鳴るだろう。ましてこうして二人野原の真ん中でこうして獣のようにまぐわっているなんて知れば。



二人きり人払いをした汚い部屋の中で、ホフマンのひねこびた目つきがジロジロと勇者の
顕わになった白い乳房を舐め回すように見る。勇者はすぐ右の窓を気にしながら、それでも
どうにかまろすぐきつぱりどホフマンに向きなおつて笑つてみせた。白い乳房が窓の外の
砂漠の夕焼けを映して眩しく輝いて激しい鼓動に上下している。

「これで…信じていただけます？」
「まだまだ、まだまだ、と部屋の奥の暗がりから
ホフマンは苛立たしげに返した。
「次は自分でやってみせろ。その
いやらしい股ぐらに指を突っ込んでよ。
何でもするって言ったろう」
あまりのことに呆然とした勇者の右手首を
ホフマンがつかみ、切れ込み深い
レオタードの太ももの間に導いた。
ホフマンはまた椅子に戻ったが、勇者は
諦めておずおずと指を動かし始めた。





「おやすみ、ビアンカ」

キスの後で寝入ってしまった夫の腕枕の上で、ビアンカはそっと目を巡らせて部屋の中を見た。遠い昔、自分の家であった宿の一室を。今はもう手放してしまった幸福な時代の住処を。

まだ熱さを保ちながら次第に力を失っていく、さっきまでビアンカの中に入っていたもの。あの時代、あの可愛らしい少年に備わるとは思いもしなかったもの。それに翻弄されていたさっきまでのあられもない自分…

もう、あの頃は永遠に戻らない。ビアンカはそっと目を閉じた。この足の間の白い滴りが、過去のいつにも勝る幸福な時代をきっと連れてきてくれるだろう。



「ああん、おにいちゃん、だめ、だめ」

可愛らしい拒否とは裏腹に、手慣れた様子でターニアの小さな手が彼の下着の中に潜り込み、熱いペニスを引きずり出した。彼は背後から憑かれたようにターニアの小さな乳房を揉み、ピンクの耳朶にくちづけを繰り返して音を立ててねぶる。

しなやかでつややかな脇腹にこすりつけるようにしてターニアは彼のものをしごき、手のひらが先走りでべとべとになると幸福そうに笑い振り返ってキスをねだった。

兄と呼ばれてはいても単に数ヶ月前に山でこの少女に拾われただけの赤の他人である。こうして毎夜毎晩体を貪り合うようになるのに時間はかからなかった。



「勘違いしないでよね」マリベルが立ち上がって草の上に落ちていた下着を穿いた。

「あんたの女になったとかそんなんじゃないし。あんたを慰めてあげたのよ」

嘘をつけ、と少年はまだ裸で遺跡の石積みの中に寝転んだまま思った。さきに
肩を抱いて慰めてたのはこちらじゃないか。

「悪くなかったわ」マリベルがぼそっと言った。「悲しみをいっとき忘れる

手段としてはね…帰るわ。明日は朝からお城に行って、キーファのこと伝えないと」

マリベルの小柄な影が去っていく。流れ星がひとつ夜空の雲の間に流れた。



今ここで自分が時間を稼がないと冗談じゃなくパーティは全滅だ。覚悟を決めたゼシカはひとつ甘いため息をつき、赤いスカートをゆっくりとたくしあげた。下半身に入ってきた風と敵の視線にソクリと身悶えし、紅潮した頬の下の形の良い唇を小さく舐め、じっとりとし目をくれてやる。

すでに巨大な胸はほとんど丸出しになり、肉色の乳輪まで見えている。衣を引き下げる手に力を込めると硬く勃ってひっかかっていた乳首がぷりっと音を立てて顕れ出た。



ラヴィエルはいつものようにワイン倉庫に少年を連れ込むやいなや、あっという間に彼の下半身を素う裸にびん剥き、自らの胸当ても引きずり下ろした。「だ、れもあたしのことを見ることができない。触ることもできない。そうしてるとね、自分が本当に生きてるのかどうかもわからなくなるよ」熱い舌がねっとりじゅうぐりと彼の股間を舐めあげる。まだ少年らしい細い腰を力強く抱え込み、喉奥まで何度も何度も出し入れする。彼の膝頭に大きな乳房をこすりつける。触れることが幸福なのだと言わんばかりに。彼は呻きながら手を伸ばし、彼女の頬を、銀髪を、かき乱すように撫で回した。





「何見てるのよ。ブギー様とわたしとのラブラブ子作りを邪魔しないで頂戴」

顔色を失ったハンフリーだったが、もはや目をそらすこともできなかった。マルティナの大きな尻たぶの間には人間の3倍はゆうにあらうかというブギーのイチモツがぐっぽりと嵌まり込み、彼女自ら腰をぐりぐりぐねらせより深みへと誘っている。ブギーが突き上げるごとに大きくまとめ髪を振り回してのけぞり、涎をたらし嬌声をあげるそのさまには、かつてハンフリーが戦った気高き武道家の誇りのかけらもなかった。

「ああ、ああ、ブギー様素敵、好き」顔を舐め回すブギーの舌を夢中で舐め返しマルティナは恍惚として叫んでいる。紅潮した肌は青みがかった唾液にぬらつき全身紫色に怪しく輝いている。あひい、とマルティナがひときわたく鳴き、全身をガクガクと痙攣させた。

商業既刊をDMM.comにて

電子書籍配信中！

晴永牧兔

検索



『ママは美魔女』

(原作：山咲まさと氏)

(アクションピザッツ連載分)

個人HP:<http://favoloso-pianeta.com>



『忍ぶれど艶(いろ)は』

(キャンプリコミックで全三話掲載)

第1話



第2話



第3話



★ あとがき ★



本来はDQ4の4章漫画の続きをお届けするはず
だったのですが、忙しくて断念してしまいましたすみません

かわりに今回はプチイラスト集みたいな感じでDQ系を
各シリーズ書き下ろさせていただきました。

それだけだとなんとなく寂しかったので馬本文を
ちよいちよいと足させていただいたのですが
いかがでしたでしょうか?もとも二次創作は
ドラゴンボールの二次小説(悟空×チチ)が
メインなので文章の方が楽だったりするのですが
(ご覧になりたい方は「favoloso-pianeta」で検索して
ください。DBばかりですが)

山咲様は毎々がピザッツで連載してたところから
原案イでお世話になりっぱなしの上
今回いろんなご無理聞いていただいて
本当に感謝の一語です。

ではまた次の機会に
今度はちゃんと漫画の方で
お会いしましょう!

2018.7.
晴永牧兔 圖

晴永牧兔 DQシリーズ イラスト&SS集

2018年8月12日 発行

著者 ■ 晴永牧兔

発行 ■ Madam Project

印刷 ■ サンライズパブリケーション (株)

※落丁・乱丁本のお取り替えは御遠慮下さい。

※著者ならびに発行元の許諾無く本誌の一部または全部を転載・複製・インター
ネット上に公開することを禁じます。

※未成年者の購入は御遠慮下さい。

2018;晴永牧兔 Printed in JAPAN



